

市民アンケート・風土資産調査 本市の魅力と現状を把握



市民のみならず、本市の現状をどのように認識し、これからのまちづくりに何を望んでいるかなどについて把握するため、昨年1月、15歳以上の市民4000人を対象としたアンケートを実施しました。

アンケートでは、回答者の7割以上が、恵まれた自然環境を誇りに感じていることや、親切で人情味豊かな地域性に満足度が高い反面、雇用の場が十分でないこと、鉄道、バスなどの交通の便に対する不満が明らかになりました。

また、本市にあるさまざまな風土資産（観光、文化、自然、歴史、特産物など）を分類・整理するとともに、それらに対する市内外での認知度や関心度、イメージを調査・分析しました。調査の結果、橋筋のホタル、砂丘の漁り火や

因幡の神話廻廊などへの関心度が高いことが分かり、戦略的な観光展開などを検討する際の貴重な資料となりました。

子ども作文を募集

豊かな感性と想像力を

本市の次代を担う子どもたちの豊かな感性と想像力を計画に取り入れようと、昨年1月、市内の小学校5、6年生の児童から作文を募集しました。

作文には、自然を生かしたまちづくりと思いやりの心を大切にした人づくり、砂丘、温泉、和紙など鳥取にしかないめずらしいものや、歴史・伝統を大切にした郷土を誇るまちづくりなど、未来に夢が広がるたくさんの想いが寄せられました。

市民ワーキンググループ

市民の生の声と市職員との議論による素案づくり

素案づくりでは、市民と市職員が、人づくりや地場産業振興などの各分野に分かれて検討する市民ワーキンググループを、昨年2月に立ち上げました。

ワーキングでは、市民アンケートや子ども作文のほか、市民のみなさんから寄せられた意見や提言を踏まえた、市民の生の声による検討が行われ、より望ましい施策のあり方について、創造的な議論の中で、素案づくりが9月まで行われました。

まちづくりワークショップ

戦略的なまちづくりの方策を話し合う

夢があり誇りのもてる20万都市づくりには、どんなことが必要なのか、そして、それを進めるための戦略的な方策は何かを検討するまちづくりワークショップを、昨年7月から9月まで開催しました。



新しいまちづくりに向けての戦略的な方策を検討したワークショップ

ワークショップでは、まちづくりを実践している市民やNPO、大学生などのほか、市の若手職員も交えて、滞在型観光への取り組み、市民一人ひとりによる環境問題への取り組み、地域レベルでの防災・防犯のあり方など、先進的な方策やアイデアをまとめました。

まちづくりフォーラム

新しいまちづくりを展望



昨年10月、鳥取環境大学で開催された「まちづくりフォーラム2005」の様子

まちづくりを広く市民のみならずとも考えていくことを目的とした「まちづくりフォーラム2005」を昨年10月に開催しました。フォーラムでは、有限会社荳蔻（あひ）コミュニケーションズ代表取締役の浦野秀一さんによる「まちづくりの主人公は誰だ」と題した基調講演の後、「夢があり誇りのもてる20万都市をめざして」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、文化や観光の振興、まちづくりの方策について意見が交わされました。